

大学院教育支援機構 企業寄附奨学制度（DDD） 報告書

氏名	溝脇 風子
研究科・専攻	教育学研究科 教育学環専攻
修士/博士・学年	修士課程 1年
支援企業名	株式会社内田洋行

・提出期限：2025年3月28日（金）17:00

- ・ページ数に制限はありません。
- ・写真や図なども組み込んでいただいて結構です。
- ・各項目について具体的に記述してください。

奨学金を得て行った研究の成果

現代日本において、差別や偏見は重大な社会問題であり、交際や結婚の反対、差別的な発言、就職や職場での不利益など、さまざまな事例が報告されている（内閣府、2022）。

偏見や差別の要因については、心理学的に多くの研究がなされてきた。感情・動機的な側面では、社会的アイデンティティ理論（Tajfel et al., 1971）、葛藤理論（Sherif et al., 1961）、心理力動的理論（Adorno et al., 1950）などが提唱され、認知的側面では、社会的学習理論（Bandura, 1961）やステレオタイプの情報処理が挙げられる。このうち、ステレオタイプの情報処理は無意識に生じることが示されている（Darley et al., 1983）。

本研究では、自らのステレオタイプの情報処理を正確に認識できる場合、それを意識的に抑制できるのではないかと考えた。一方で、無自覚な人は抑制できず、ステレオタイプの情報処理を行う傾向が強いと仮定した。このように、自らの情報処理の過程を把握する能力をメタ認知モニタリングと呼ぶ。本研究では、メタ認知モニタリングが正確な人ほど、対人認知においてステレオタイプの影響を受けにくいと仮定した。

メタ認知には、メタ認知的知識も含まれる。例えば、自分や他者の認知バイアスに関する知識を指す。過去の研究では、自らの偏見の程度を正確に把握している人ほど、偏見の影響を受けにくいことが示されている（West & Eaton, 2019）。しかし、この研究で扱われたメタ認知的知識は、偏見を表出している最中の自己認識ではない。実際の場面で偏見を修正するには、メタ認知モニタリングの精度が重要であると考えられる。

メタ認知の研究は学習分野で多く行われてきた。例えば、正しい答えが与えられない状態でメタ認知のフィードバックを受けても学習成果が向上しない（Raaijmakers et al., 2019）ことや、有効な学習方略を知っていても実践できていないケースがある（Forest et al., 2017）ことが報告されている。これらの知見から、メタ認知的知識よりもメタ認知モニタリングを重視することが、偏見低減にはより効果的であると考えられる。

しかし、実社会で実施されている偏見・差別低減介入の多くは、メタ認知的知識の向上に焦点を当てており、メタ認知モニタリングの向上を目的としたトレーニングは行われていない（Atewologun & Tresh, 2018）。本研究では、メタ認知モニタリングの重要性を明らかにすることで、より効果的な偏見・差別低減介入の開発につなげることを目的とする。

具体的には、入社希望者の履歴書を評価する課題(Figure1)を用い、国籍や性別の情報が評価にどの程度影響するかを測定する（実際のバイアスの程度）。加えて、参加者自身にも、自らがどの程度国籍や性別の影響を受けたと認識しているかを尋ね（メタ認知モニタリング:Figure2）、その差分を算出することでメタ認知モニタリングの正確性を評価する。この正確性と実際のバイアスの程度の相関を分析することで、メタ認知モニタリングが正確な人ほど、偏見の影響を受けにくいという仮説を検証する。現在、実験計画を立案し、実施中である。

Figure1

履歴書評価課題の画面の例

氏名	ドー テイ ミン		
性別	男・女・その他	国籍	ベトナム
大学での成績 (GPA: 最低0~最大4)	1.5	TOEIC (最低10~最大990)	420
免許・資格	ITパスポート試験 合格		

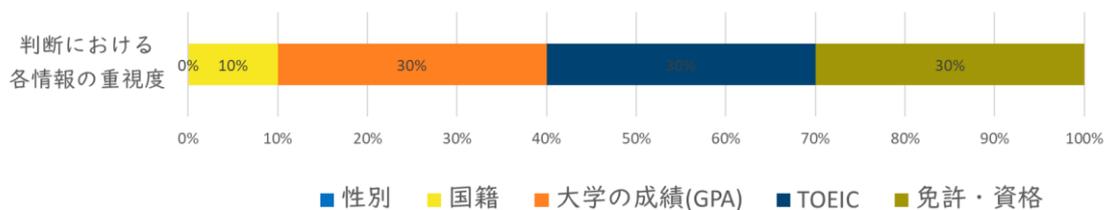
Figure2

メタ認知モニタリング測定質問の例：

参加者は以下の教示を受け、下図のバーで評価

「先ほど履歴書を見て採用率を決めるときに、あなたはどれくらい性別、国籍、大学の成績(GPA)、TOEIC、免許・資格の情報を重視しましたか。

それぞれの情報について、全くその情報に影響を受けていないときを 0%、その情報だけを重視したという場合を 100%として、すべての情報の合計が 100%になるように回答してください。」



産学協同の取組における成果

面談と交流会において、自分の研究を発表しご助言いただく機会をいただいた。心理学の研究をしていると、つい自らの考えが論文の中に閉じがちである。しかし、実際に企業で人事を担当されている方に、履歴書を審査する際考えていることや、企業での人事をよりよいものにするための方法についてアイデアをいただいたことで、自らの研究を社会に生かしていくことを意識していくべきだと考えさせられた。自分の研究テーマは、特に社会に生かしてこそ価値を持つテーマであるため、社会に生かすところまでを自分の使命としてとらえなければいけないと思った。

株式会社内田洋行の事業内容について、非常に幅広く社会に影響力を持つ会社だと感じた。実際の空間デザインと、ICT を活用した「場」づくり、その両方を担っていらっしゃるということに感銘を受けた。その幅広さを以てすれば、技術的な制約に阻まれることなく、目標とする価値創造から逆算的にその手段を考えていくことも可能であると思う。研究の知見を社会に生かすうえで、研究者だけではできないことも多いが、このような企業と協同で理想を実現する方法があるのだという新たな視点を得た。

今後の展望

実験を進め、メタ認知モニタリングが正確なほど、バイアスの程度が弱いという結果を得られた場合、次のステップとして、メタ認知モニタリングの正確性の向上がバイアスの低下をもたらすという因果関係を検証する。対人判断におけるメタ認知モニタリングを改善する介入方法を学習分野における知見を転用して開発し、その介入を行うことでメタ認知モニタリングの正確性が向上するか、向上したときに対人認知のバイアスは低下するかを検討する。バイアスを低下させることができた場合、

これらを教育現場や企業教育などに生かす方法を考えたい。

また、本研究以外にも差別や偏見を低減するための介入は複数考えられているが、その中で最も効果的な方法はどのようなものなのか、実証的に検討したいと考えている。科学的な根拠のもとに開発された偏見・差別の低減介入を社会実装し、平等な社会の実現に貢献することが私の目標である。

1 年間にわたりご支援を賜りました株式会社内田洋行、京都大学大学院教育支援機構の関係者の皆様に深く感謝申し上げます。経済面での心配なく研究に励むことができ、かつ普段得られない企業の方からのご助言をいただけたことは、自らの研究の視野を広げるうえで非常に貴重な経験でした。今後とも、研究の知見を社会に還元することを最終目標に、研究に邁進してまいります。誠にありがとうございました。